

テーマ	① 介護員のキャリアアップ	② 施設間交流事業について	③ 事業団PRについて																				
提案者	《灘海園》 介護員 須田 浩充	《山口県みほり学園》 主任(児童指導員) 時藤 政士	《山口県みほり学園》 セラピスト 杉田 恵																				
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、介護業界の主な資格と言えば、介護福祉士である。資格を取得するために様々な分野の勉強をするが、いざ取得してしまえば介護士は勉強をあまりしない傾向にある。 ○ そんな中、日本は超高齢化社会に突入する。様々な問題点が起こる中、介護現場ではより人材が貴重になってくると考える。 ○ その中でより専門的な知識を身に着けた職員を育成していくことと、各職員がモチベーションを保てるように介護員の資格取得に新しい助成金と新たに資格手当の提案をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度に、各施設の行事の際などに職員がボランティアとして参加することで他施設を知り施設間の交流を促進する「施設間ボランティア」を提案したが、もう少し施設間同士で何か行う機会があっても良いのではないかと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業団職員の新規採用について、毎年事務局から精力的に行っているが、人員確保が難しい現状がある。 ○ その中でも、応募者に新卒者の少ない傾向があり、事業団への敷居の高さや事業団がどういったところからわからないという不安があるのではと考えられる。 																				
課題の解決方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たに資格取得助成金制度の対象資格とする。助成金制度の対象にすることで資格取得しやすくする。 ①認知症ケア専門士 ②認知症ケア上級専門士 ○ 新たに資格手当支給対象の資格にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の提案では事業団施設間で利用者も含めた交流事業を展開することにより、施設間の横のつながり、利用者同士のふれあい、職員の交流がさらに促進できるのではないかと考えた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業団職員募集の際、大学生の就活方法、使うツール等、ニーズを把握しPRする必要があるのでは。 																				
具体的な取組方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取得後に手当を支給する。 ○ すでに持っている人には手当を支給する。 ○ 資格取得後は勉強会や事例検討などを行い、認知症についての正しい対応や知識をみんなに広めていく。 ○ 将来的には事業団他施設での困難事例検討会等への派遣も視野に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設で利用者同士がふれあえる行事、社会体験等ができる機会等を企画立案する。 <企画例> ◇児童施設入所児童が特養、障害者施設に訪問し世代間交流や社会体験をする。 ◇児童センター行事等へ利用者が出演者やボランティアとして参加する。 ◇施設合同でレクリエーション大会などを開催する。 ◇外出行事等で、外出先近くに事業団施設がある場合は、施設職員がガイド等して地域の見どころなどを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学生の就活方法はHPでの検索が主流。HP充実を図り事業団の魅力が伝わる動画作成を行う。 ①撮影のためドローン、カメラの購入。 ②動画撮影、作成は事務局主体でスタッフを構成しコスト削減。 ③事業団各施設の外観、職員の仕事内容等CMの要領で撮影。 ④youtubeへ動画投稿し、事業団HPへ掲載する。 																				
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ より専門的に認知症の利用者と向き合うことが出来る ○ 考えてもなかなかうまくいかなかったことが専門的なアドバイスがもらえる。 ○ 定期的な勉強会等を開くことで職員もより専門的な知識が身に付く。 ○ 介護員のキャリアアップに繋がる。 ○ 他施設との交流に繋がる。 ○ 新人教育に役立つ。 ○ 職員のモチベーションアップに繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業団施設同士の交流が図れ、横のつながりが促進できる。 ○ 利用者のふれあい、世代間交流、社会体験等が行える。 ○ 企画立案を進めることにより、職員同士の交流、連携も図れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学生の目にとまりやすくなり、事業団への興味から新卒者の応募が増えるのでは。 																				
費用	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">認知症ケア専門士</th> <th colspan="2">認知症ケア上級専門士</th> </tr> <tr> <td>筆記試験</td> <td>12,000円/4分野</td> <td>研修料</td> <td>7,000円</td> </tr> <tr> <td>面接試験</td> <td>8,000円</td> <td>受験料</td> <td>10,000円</td> </tr> <tr> <td>認定料</td> <td>15,000円</td> <td>認定料</td> <td>15,000円</td> </tr> <tr> <td>更新料</td> <td>10,000円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	認知症ケア専門士		認知症ケア上級専門士		筆記試験	12,000円/4分野	研修料	7,000円	面接試験	8,000円	受験料	10,000円	認定料	15,000円	認定料	15,000円	更新料	10,000円			<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画立案内容による。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ドローン ¥150,000 カメラ ¥100,000
認知症ケア専門士		認知症ケア上級専門士																					
筆記試験	12,000円/4分野	研修料	7,000円																				
面接試験	8,000円	受験料	10,000円																				
認定料	15,000円	認定料	15,000円																				
更新料	10,000円																						
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既に資格取得している職員も複数名在籍している。新たに資格取得助成の対象となった『住環境コーディネーター』よりも経費・難易度等高く、スキルアップに有益な資格であると考ええる。 ○ 難点は介護施設では有益であるが、障害施設・児童施設の職員には興味が薄いと思われる 																						